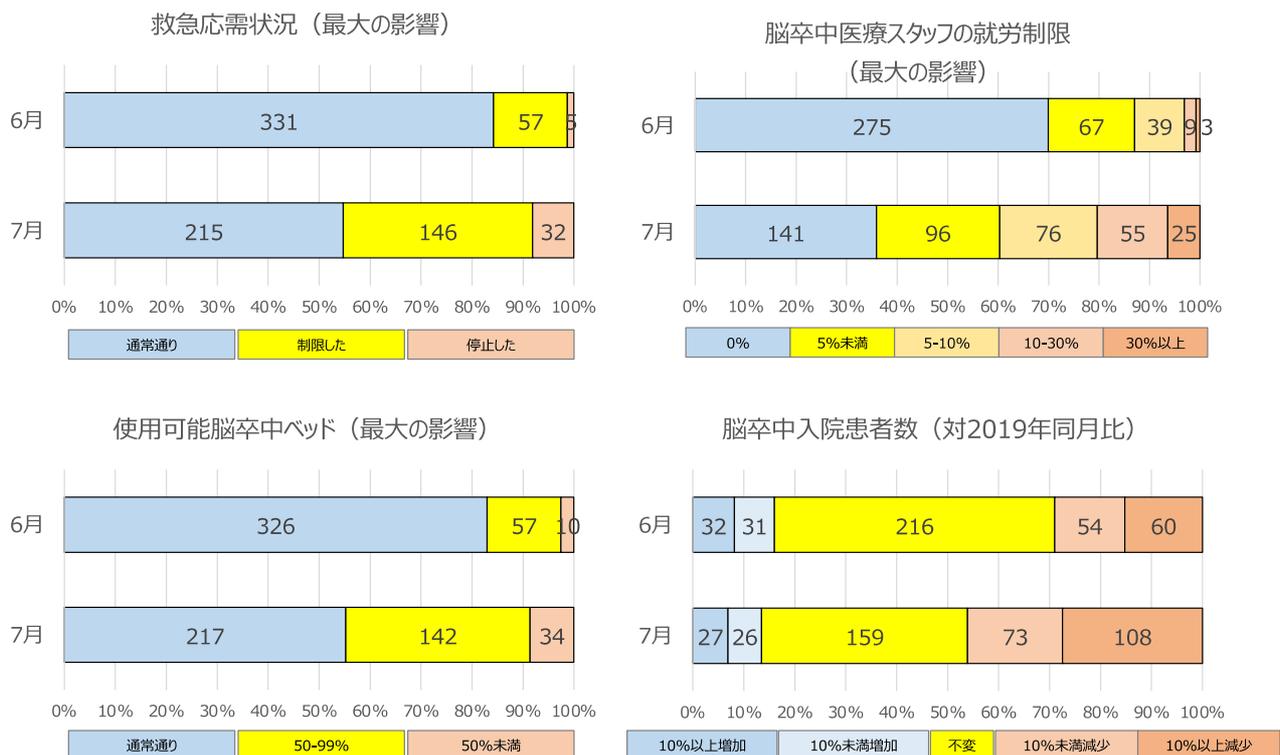


COVID-19 感染第7波による脳卒中救急医療への影響について

一般社団法人日本脳卒中学会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）第7波の急速な蔓延を受け、全国の脳卒中救急医療体制について2022年7月末日時点で現状分析を行いました。

その結果、一次脳卒中センター393施設（学会認定961施設の40.9%）のうち救急応需を通常通り行えている施設は6月の84.2%から7月は54.7%まで減少し、これまで行なった調査で最も深刻な影響を受けていました。7月中に何らかの診療制限に陥った施設数は178（回答施設全体の45.3%）、うち32施設（回答施設全体の8.1%）は救急応需を停止した日がありました。その要因は、医療スタッフの就業制限による欠員、脳卒中受け入れベッドの減少であると考えられます。

厚労科研「脳卒中の急性期診療提供体制の変革に係る実態把握及び有効性等検証のための研究」班  
日本脳卒中学会「急性期医療連携プロジェクト」  
2022年7月速報（2022/8/8現在、回答393施設）



日本脳卒中学会では COVID-19 蔓延に備え、感染防御を徹底し脳卒中診療を行なうべく体制を整備してまいりました。しかしながら、7月現在の感染蔓延の状況においては、通常通りの救急医療提供は困難な状況にあります。

2020年以降、感染拡大のたびに医療逼迫を繰り返しており、行政におかれましては有効な対策と医療機関への支援を賜りますようお願い申し上げます。国民の皆様には日々の生活における感染予防とともに、脳卒中予防のために必要な治療を中断されることのないよう改めてお願いいたします。

付記)

厚労科研「脳卒中の急性期診療提供体制の変革に係る実態把握及び有効性等の検証のための研究」班  
 日本脳卒中学会「急性期連携医療プロジェクト」  
 2022年7月速報（2022/8/8現在、回答393施設）

